

平成10年3月期 決算短信

平成10年5月25日

上場会社名 東海旅客鉄道株式会社
 コード番号 9022
 本社所在地 名古屋市中村区名駅南二丁目14番19号
 問合せ先 責任者役職名 広報部長
 氏名 河野雅之
 決算取締役会開催日 平成10年5月25日
 連結決算の有無 有

上場取引所(所属部)
 名古屋、東京、大阪の各証券取引所市場第一部
 京都証券取引所
 TEL (052)564-2549
 定時株主総会開催日 平成10年6月26日
 中間配当制度の有無 有

1. 平成10年3月期の業績(平成9年4月1日~平成10年3月31日)

(1) 経営成績 (注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

| | 売上高 | 対前期 増減率 | 営業利益 | 対前期 増減率 | 経常利益 | 対前期 増減率 |
|----------|-----------|------------|---------|------------|--------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 平成10年3月期 | 1,147,112 | (0.1) | 368,672 | (3.1) | 61,460 | (7.3) |
| 平成9年3月期 | 1,146,245 | (3.0) | 380,601 | (0.5) | 66,321 | (6.1) |

| | 当期利益 | 対前期 増減率 | 1株当たり 当期利益 | 潜在株式調整後 1株当たり当期利益 | 株主資本 当期利益率 | 総資本 経常利益率 | 売上高 経常利益率 |
|----------|--------|------------|---------------|----------------------|---------------|--------------|--------------|
| | 百万円 | % | 円 銭 | 円 銭 | % | % | % |
| 平成10年3月期 | 33,424 | (1.5) | 14,921 47 | — | 7.2 | 1.0 | 5.4 |
| 平成9年3月期 | 33,949 | (34.7) | 15,156 16 | — | 7.6 | 1.1 | 5.8 |

(注)

1. 期中平均株式数 { 平成10年3月期 2,240千株
平成9年3月期 2,240千株
2. 会計処理の方法の変更 該当事項はありません。

(2) 配当状況

| | 1株当たり年間配当金 | | | 配当金総額 (年間) | 配当性向 | 株主資本 配当率 |
|----------|------------|----------|----------|---------------|------|-------------|
| | 中 | 間 | 期 末 | | | |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 百万円 | % | % |
| 平成10年3月期 | 5,000 00 | 2,500 00 | 2,500 00 | 11,200 | 33.5 | 2.3 |
| 平成9年3月期 | 5,000 00 | 2,500 00 | 2,500 00 | 11,200 | 33.0 | 2.5 |

(3) 財政状態

| | 総資産 | 株主資本 | 株主資本比率 | 1株当たり株主資本 |
|----------|-----------|---------|--------|------------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 平成10年3月期 | 5,959,880 | 477,720 | 8.0 | 213,267 98 |
| 平成9年3月期 | 6,061,444 | 455,690 | 7.5 | 203,433 33 |

(注)

1. 期末発行済株式数 { 平成10年3月期 2,240千株
平成9年3月期 2,240千株
(期末発行済株式は額面株式であり、額面は5万円であります。)
2. 有価証券の時価と貸借対照表計上額との差額 34,894百万円
3. デリバティブ取引の時価と契約額等との差額 — 百万円

2. 平成11年3月期の業績予想(平成10年4月1日~平成11年3月31日)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期利益 | 1株当たり年間配当金 | |
|-----|-----------|--------|--------|------------|----------|
| | | | | 中 | 期 末 |
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 | 円 銭 |
| 中間期 | 563,500 | 44,000 | 21,100 | 2,500 00 | — |
| 通期 | 1,125,400 | 63,000 | 28,800 | — | 5,000 00 |

(参考) 1株当たり予想当期利益(通期) 12,857円 14銭

(1) 当期および次期の業績の概況

当期におけるわが国経済は、消費税率改定等の影響により個人消費が落ち込む中、金融機関等の経営破綻が相次ぐなど、深刻な景気の低迷が続きました。

このような状況下、当社は安全・安定輸送の確保を第一に、東海道新幹線「のぞみ」の増発を柱とした利用促進による収入の確保および一層の業務効率化に努めました。また、東海道新幹線の品川駅新設工事をはじめ、中央新幹線の全線にわたる地形・地質調査、山梨リニア実験線における走行試験などを着実に進めたほか、JRセントラルタワーズ計画についても、運営子会社と密接に連携し、着実に推進しました。

上記の結果、当期の営業収益は1兆1,471億円（前期比0.1%増）となりましたが、固定資産税承継特例の期限切れ、鉄道共済年金の厚生年金への統合等に伴う費用増があり、経常利益は614億円（前期比7.3%減）、当期利益は334億円（前期比1.5%減）となりました。

なお、当社株式は、平成9年10月8日より名古屋、東京、大阪の各証券取引所市場第一部および京都証券取引所に上場されました。当社は、これを機にさらなる事業の発展を図り、株主の皆様のご期待にお応えしてまいり所存でございます。

次に各事業別の状況について報告いたします。

ア．鉄道事業

東海道新幹線につきましては、平成9年11月のダイヤ改正において、「のぞみ」を大幅に増発するとともに、新横浜駅停車を拡大しました。この結果、「のぞみ」のご利用状況は好調に推移し、全体では輸送量は前期とほぼ同程度を確保しました。

在来線につきましては、平成9年10月のダイヤ改正において、中央本線の快速列車の増発や列車ダイヤの等時隔化により輸送改善を図るなど、一層の利用促進に努めました。この結果、都市圏輸送は堅調に推移しましたが、特急列車のご利用が低調であったこともあり、輸送量は前期を下回ることとなりました。

安全対策面につきましては、東海道本線函南～新所原間のCTC（列車集中制御装置）化、踏切保安設備の改良、ATS（自動列車停止装置）への速度照査機能の付加などに引き続き取り組みました。また、土木構造物の耐震補強工事や「東海道・山陽新幹線第2総合指令所」の建設工事を進めるとともに、在来線において地震情報伝達システムを使用開始するなど、大規模災害対策を着実に推進しました。

設備面につきましては、東海道新幹線に300系車両を引き続き投入するとともに、300系の後継車両である700系車両について、量産先行試作車を西日本旅客鉄道株式会社と

の共同開発により製作し、走行試験を実施しました。また、在来線の「軌道・電気総合試験車」の使用開始をはじめ、新幹線主要駅への指定券券売機の設置拡大、新幹線自動改札機の導入など、業務運営の効率化・省力化を推進しました。さらに、旅客関係設備のリニューアルを推進するなど、利便性の向上に取り組みました。

東海道新幹線品川駅新設工事につきましては、支障移転工事を進めるとともに、線路構造物の基礎工事に着手しました。

技術開発につきましては、超電導磁気浮上方式鉄道について、山梨リニア実験線における走行試験を開始し、最高時速 550 キロメートルでの走行を確認したほか、第二編成車両の総合調整試験などを着実に進めました。また、高速鉄道の質的向上を目指し、300 X 試験車両による走行試験を引き続き実施し、乗り心地のさらなる向上や騒音の一層の低減等に向けた技術開発を推進しました。

販売活動につきましては、「京都・奈良キャンペーン」「ワイドビューで行こうキャンペーン」などの宣伝活動を展開し、引き続き旅行需要の喚起を図りました。また、新横浜駅ご利用の「のぞみ指定席特急回数券」を追加したほか、「京の遊々きっぷ」や「立山黒部アルペンきっぷ」などの企画商品の増売に努めました。さらに、おとどけ端末について、機能充実やサービス向上を図るとともに、名古屋、静岡地区において新たにサービスを展開するなど、引き続き市中販売の強化に取り組みました。

上記の結果、当期の輸送人員は 5 億 1 千 1 百万人（前期比 1.5%減）、輸送人キロは 505 億 6 千 5 百万人キロ（前期比 0.3%減）、営業収益は 1 兆 1,391 億円（前期比 0.2%増）となりました。

イ．関連事業

関連事業につきましては、駅ビルからの賃貸収入等の安定した収益確保に努めたほか、不動産分譲では、東海道本線豊田町駅付近の「ジェイハイム豊田本郷」のマンション分譲が前期販売を完了したのに続き、「ジェイハイム豊田立野」のマンション建設に着手するとともに、引き続き武豊線亀崎駅付近の「ジェイタウン半田のぞみが丘」の戸建住宅分譲を進めました。

上記の結果、当期の営業収益は、79 億円（前期比 19.4%減）となりました。

子会社による事業につきましては、JR セントラルタワーズの建設工事、およびその中で展開する百貨店・ホテル・オフィス賃貸等各事業計画の推進を図るとともに、豊橋駅ビルに「ホテルアソシア豊橋」を開業しました。

次期の業績の見通しといたしましては、営業収益 1 兆 1,254 億円、経常利益は 630 億円、当期利益は 288 億円を見込んでおります。

(2) 配 当 政 策

当社は、東京～名古屋～大阪間の大動脈輸送を中心とした鉄道事業を経営の柱とする社会的使命の強い業種であることから、長期にわたる安定的な経営基盤の確保・強化に努めるとともに、配当につきましても安定配当の継続を基本方針とし、第4期以降、1株当たり年5,000円の配当を実施してまいりました。

以上の基本方針に基づき、当期におきましても、中間配当金として1株当たり2,500円を実施し、期末配当金も中間配当金と同様1株当たり2,500円を予定しております。この結果、当期の配当性向は33.5%、株主資本利益率は7.2%、株主資本配当率は2.3%となります。

また、当期の内部留保資金につきましては、長期債務の返済資金等に充当し、財務体質の強化等に努めてまいり所存であります。

次期以降につきましても、より一層の業績の向上に努め、経営基盤の強化を図りつつ安定配当を維持できるよう努力してまいり所存であります。

(3) - 1 比較貸借対照表

(単位 : 百万円)

| 科 目 | 当 期 末 (平成10年3月31日現在) | 前 期 末 (平成9年3月31日現在) | 増 減 |
|-------------------|-------------------------|------------------------|---------------|
| (資 産 の 部) | | | |
| 流 動 資 産 | 1 8 6 , 5 6 9 | 2 3 5 , 8 7 7 | 4 9 , 3 0 7 |
| 現 金 ・ 預 金 | 3 5 , 4 2 1 | 4 3 , 9 8 7 | 8 , 5 6 6 |
| 未 収 運 賃 | 1 1 , 2 9 9 | 2 0 , 8 8 5 | 9 , 5 8 6 |
| 未 収 金 | 7 , 3 8 5 | 6 , 9 4 8 | 4 3 7 |
| 未 収 収 益 | 3 , 7 0 3 | 2 , 6 7 1 | 1 , 0 3 1 |
| 短 期 貸 付 金 | 1 0 1 , 9 3 2 | 1 3 5 , 9 6 0 | 3 4 , 0 2 8 |
| 有 価 証 券 | — | 1 2 | 1 2 |
| 分 譲 土 地 建 物 | 6 , 5 6 7 | 6 , 6 5 4 | 8 7 |
| 貯 蔵 品 | 4 , 6 3 4 | 4 , 4 9 7 | 1 3 6 |
| 前 払 費 用 | 2 , 8 0 6 | 2 , 9 0 4 | 9 8 |
| そ の 他 の 流 動 資 産 | 1 3 , 1 9 6 | 1 2 , 0 3 9 | 1 , 1 5 7 |
| 貸 倒 引 当 金 | 3 7 7 | 6 8 4 | 3 0 7 |
| 固 定 資 産 | 5 , 7 7 3 , 3 1 1 | 5 , 8 2 5 , 5 6 7 | 5 2 , 2 5 6 |
| 鉄 道 事 業 固 定 資 産 | 5 , 2 4 3 , 9 2 8 | 5 , 2 4 0 , 1 0 9 | 3 , 8 1 8 |
| 関 連 事 業 固 定 資 産 | 6 2 , 8 3 6 | 5 7 , 5 8 5 | 5 , 2 5 1 |
| 各 事 業 関 連 固 定 資 産 | 1 2 2 , 8 9 3 | 1 2 5 , 0 8 9 | 2 , 1 9 5 |
| 建 設 仮 勘 定 | 8 8 , 9 9 7 | 1 6 5 , 9 0 8 | 7 6 , 9 1 1 |
| 投 資 等 | 2 5 4 , 6 5 5 | 2 3 6 , 8 7 4 | 1 7 , 7 8 0 |
| 資 産 合 計 | 5 , 9 5 9 , 8 8 0 | 6 , 0 6 1 , 4 4 4 | 1 0 1 , 5 6 4 |

(注) 1 . 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

2 . 有形固定資産の減価償却累計額

| | |
|--------------|--------------|
| (当 期 末) | (前 期 末) |
| 1,643,594百万円 | 1,488,574百万円 |

3 . 連帯債務

(1) 日本国有鉄道改革法に基づく鉄道債券に係る連帯債務額

| | |
|------------|------------|
| (当 期 末) | (前 期 末) |
| 107,300百万円 | 119,300百万円 |

(自社承継額は償還済み) (自社承継額は償還済み)

(2) 財団法人鉄道総合技術研究所の長期借入金に係る連帯債務額

| | |
|-----------|-----------|
| (当 期 末) | (前 期 末) |
| 42,200百万円 | 41,200百万円 |

4 . 保証債務及び保証債務予約

| | |
|-----------------|-----------|
| (当 期 末) | (前 期 末) |
| 保証債務 44,000百万円 | 32,000百万円 |
| 保証債務予約 3,000百万円 | 3,000百万円 |

5 . 社債及び鉄道施設購入長期未払金の債務履行引受契約に係る偶発債務

| | |
|------------|------------|
| (当 期 末) | (前 期 末) |
| 356,587百万円 | 286,691百万円 |

(単位：百万円)

| 科 目 | 当 期 末 (平成10年3月31日現在) | 前 期 末 (平成9年3月31日現在) | 増 減 |
|-------------------------|-------------------------|------------------------|---------------|
| (負 債 の 部) | | | |
| 流 動 負 債 | 3 8 3 , 9 6 6 | 3 8 6 , 9 3 7 | 2 , 9 7 0 |
| 1年以内に返済する 長期借入金 | 2 1 , 9 8 0 | 1 7 , 5 4 6 | 4 , 4 3 3 |
| 1年以内に支払う 鉄道施設購入長期未払金 | 1 4 1 , 6 1 1 | 1 3 6 , 9 5 5 | 4 , 6 5 6 |
| 未 払 金 | 7 3 , 0 9 0 | 8 0 , 2 6 3 | 7 , 1 7 3 |
| 未 払 消 費 税 等 | 1 6 , 5 7 4 | 3 , 2 8 2 | 1 3 , 2 9 2 |
| 未 払 法 人 税 等 | 1 1 , 4 1 8 | 1 6 , 1 5 7 | 4 , 7 3 8 |
| 未 払 事 業 税 等 | 4 , 4 3 3 | 4 , 9 0 5 | 4 7 2 |
| 未 払 費 用 | 4 3 , 3 4 3 | 4 8 , 2 3 0 | 4 , 8 8 6 |
| 預 り 連 絡 運 賃 | 6 , 8 8 8 | 5 2 7 | 6 , 3 6 0 |
| 預 り 金 | 5 , 8 1 1 | 5 , 9 4 9 | 1 3 8 |
| 前 受 運 賃 | 3 1 , 5 6 2 | 4 7 , 9 0 6 | 1 6 , 3 4 3 |
| そ の 他 の 流 動 負 債 | 2 7 , 2 5 2 | 2 5 , 2 1 2 | 2 , 0 4 0 |
| 固 定 負 債 | 5 , 0 9 8 , 1 9 3 | 5 , 2 1 8 , 8 1 6 | 1 2 0 , 6 2 3 |
| 社 債 | 1 0 0 , 0 0 0 | 5 0 , 0 0 0 | 5 0 , 0 0 0 |
| 長 期 借 入 金 | 7 6 4 , 7 0 3 | 6 8 9 , 1 8 4 | 7 5 , 5 1 9 |
| 鉄道施設購入長期未払金 | 4 , 0 1 6 , 9 3 2 | 4 , 2 7 0 , 6 4 1 | 2 5 3 , 7 0 9 |
| 退 職 給 与 引 当 金 | 2 1 0 , 0 4 6 | 2 0 2 , 4 7 7 | 7 , 5 6 9 |
| そ の 他 の 固 定 負 債 | 6 , 5 1 0 | 6 , 5 1 3 | 2 |
| 負 債 合 計 | 5 , 4 8 2 , 1 6 0 | 5 , 6 0 5 , 7 5 4 | 1 2 3 , 5 9 3 |
| (資 本 の 部) | | | |
| 資 本 金 | 1 1 2 , 0 0 0 | 1 1 2 , 0 0 0 | — |
| 法 定 準 備 金 | 6 2 , 0 0 2 | 6 0 , 8 6 2 | 1 , 1 3 9 |
| 資 本 準 備 金 | 5 3 , 5 0 0 | 5 3 , 5 0 0 | — |
| 利 益 準 備 金 | 8 , 5 0 2 | 7 , 3 6 2 | 1 , 1 3 9 |
| 剰 余 金 | 3 0 3 , 7 1 7 | 2 8 2 , 8 2 7 | 2 0 , 8 9 0 |
| 圧 縮 記 帳 積 立 金 | 1 6 , 5 5 2 | 1 6 , 5 5 2 | — |
| 別 途 積 立 金 | 2 1 0 , 0 0 0 | 1 9 0 , 0 0 0 | 2 0 , 0 0 0 |
| 当 期 未 処 分 利 益 | 7 7 , 1 6 5 | 7 6 , 2 7 5 | 8 9 0 |
| (うち当期利益) | (3 3 , 4 2 4) | (3 3 , 9 4 9) | (5 2 5) |
| 資 本 合 計 | 4 7 7 , 7 2 0 | 4 5 5 , 6 9 0 | 2 2 , 0 2 9 |
| 負 債 ・ 資 本 合 計 | 5 , 9 5 9 , 8 8 0 | 6 , 0 6 1 , 4 4 4 | 1 0 1 , 5 6 4 |

(3) - 2 比較損益計算書

(単位 : 百万円)

| 科 目 | 当 期 | 前 期 | 増 減 |
|---------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------|
| | 〔平成 9年4月 1日から 平成10年3月31日まで〕 | 〔平成 8年4月 1日から 平成 9年3月31日まで〕 | |
| 経常損益の部 | | | |
| (営業損益の部) | | | |
| 鉄道事業 | | | |
| 営業収益 | 1,139,135 | 1,136,342 | 2,793 |
| 営業費 | 773,061 | 758,525 | 14,535 |
| 営業利益 | 366,074 | 377,816 | 11,742 |
| 関連事業 | | | |
| 営業収益 | 7,977 | 9,903 | 1,926 |
| 営業費 | 5,378 | 7,118 | 1,739 |
| 営業利益 | 2,598 | 2,784 | 186 |
| 全事業営業利益 | 368,672 | 380,601 | 11,928 |
| (営業外損益の部) | | | |
| 営業外収益 | 7,982 | 7,981 | 1 |
| 営業外費用 | 315,194 | 322,261 | 7,066 |
| 経常利益 | 61,460 | 66,321 | 4,860 |
| 特別損益の部 | | | |
| 特別利益 | 17,125 | 37,592 | 20,466 |
| 特別損失 | 15,185 | 36,628 | 21,442 |
| 税引前当期利益 | 63,400 | 67,284 | 3,884 |
| 法人税等 | 29,976 | 33,334 | 3,358 |
| 当期利益 | 33,424 | 33,949 | 525 |
| 前期繰越利益 | 49,901 | 48,485 | 1,415 |
| 中間配当額 | 5,600 | 5,600 | — |
| 中間配当に伴う 利益準備金積立額 | 560 | 560 | — |
| 当期末処分利益 | 77,165 | 76,275 | 890 |

(注) 1 . 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

| | | |
|---------------|-----------|-----------|
| 2 . 特別利益の主な内訳 | (当 期) | (前 期) |
| 工事負担金受入額等 | 15,052百万円 | 33,381百万円 |
| 3 . 特別損失の主な内訳 | (当 期) | (前 期) |
| 工事負担金受入額等圧縮損 | 14,984百万円 | 35,109百万円 |

重要な会計方針

- 1．有価証券（信託によるものを含む）の評価基準及び評価方法
移動平均法による原価法によっています。
- 2．たな卸資産の評価基準及び評価方法
 - (1) 分譲土地建物
個別法による原価法によっています。
 - (2) 貯蔵品
移動平均法による原価法によっています。
- 3．有形固定資産の減価償却方法
 - (1) 取替資産以外の資産
新幹線鉄道施設に係る建物及び構築物並びにリニア実験線施設に係る建物及び構築物
法人税法に定める定額法によっています。
その他の資産
法人税法に定める定率法によっています。
なお、新幹線車両については走行キロを基準として増加償却を行っています。
 - (2) 取替資産
法人税法に定める取替法によっています。
- 4．繰延資産の処理方法
支出時に全額費用として処理しています。
- 5．引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、法人税法による繰入限度相当額（法定繰入率）を計上しています。
 - (2) 退職給与引当金
従業員の退職給与の支給に備えるため、期末在職者の自己都合要支給額を基礎とする現価方式により計上しています。
- 6．リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。
- 7．厚生年金移換負担金の処理方法
厚生年金保険法等の一部を改正する法律（平成8年法律第82号）により、日本鉄道共済組合から厚生年金へ移換すべき積立金の不足額は事業主が負担することとなり、当社の負担額29,066百万円は、投資等の長期前払費用に計上し、当期より5年間にわたって均等に分割して費用計上しています。
- 8．消費税等の会計処理方法
税抜方式によっています。

リース取引関係

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位 百万円)

| | 当 期 末 | | | 前 期 末 | | |
|----------------------|-------------|--------------------|-------------------|-------------|--------------------|-------------------|
| | 取得価額 相当額 | 減価償却 累計額 相当額 | 期 末 残 高 相当額 | 取得価額 相当額 | 減価償却 累計額 相当額 | 期 末 残 高 相当額 |
| 鉄 道 事 業 固 定 資 産 | 6,936 | 2,365 | 4,571 | 5,593 | 2,462 | 3,130 |
| 関 連 事 業 固 定 資 産 | 30 | 16 | 14 | 48 | 29 | 18 |
| 各 事 業 関 連 固 定 資 産 | 3,121 | 1,483 | 1,637 | 3,933 | 1,547 | 2,386 |
| 合 計 | 10,088 | 3,865 | 6,223 | 9,575 | 4,039 | 5,535 |

(注) 取得価額相当額の算定は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法によっています。

2. 未経過リース料期末残高相当額

| | (当 期 末) | (前 期 末) |
|-------|-----------|-----------|
| 1 年 内 | 2,008百万円 | 1,786百万円 |
| 1 年 超 | 4,214百万円 | 3,749百万円 |
| 合 計 | 6,223百万円 | 5,535百万円 |

(注) 未経過リース料期末残高相当額の算定は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法によっています。

3. 支払リース料及び減価償却費相当額

| | (当 期) | (前 期) |
|-----------------|----------|----------|
| 支 払 リ ー ス 料 | 2,218百万円 | 1,670百万円 |
| 減 価 償 却 費 相 当 額 | 2,218百万円 | 1,670百万円 |

4. 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

(3) - 3 比較利益処分案

(単位 : 百万円)

| 科 目 | 当 期 | 前 期 | 増 減 |
|---------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------|
| 当 期 未 処 分 利 益 | 7 7 , 1 6 5 | 7 6 , 2 7 5 | 8 9 0 |
| これを次のとおり処分します。 | | | |
| 利 益 準 備 金 | 5 7 9 | 5 7 9 | 0 |
| 配 当 金 | 5 , 6 0 0 (1 株につき2,500円) | 5 , 6 0 0 (1 株につき2,500円) | — |
| 役 員 賞 与 金 (うち 監 査 役 賞 与 金) | 1 9 6 (1 2) | 1 9 4 (1 2) | 2 (0) |
| 別 途 積 立 金 | 2 0 , 0 0 0 | 2 0 , 0 0 0 | — |
| 次 期 繰 越 利 益 | 5 0 , 7 8 8 | 4 9 , 9 0 1 | 8 8 7 |

(注) 1 . 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

2 . 平成 8 年 12 月 10 日に 1 株につき 2,500 円 の中間配当を実施しました。

3 . 平成 9 年 12 月 10 日に 1 株につき 2,500 円 の中間配当を実施しました。

(4) 部門別売上高明細表

営業収益の内訳

(単位：億円)

| 項 目 | | | 当 期 〔平成 9年4月 1日から 平成10年3月31日まで〕 | 前 期 〔平成8年4月 1日から 平成9年3月31日まで〕 | 比 較 | |
|--------------------------------------|---------------------------------|-------------|---------------------------------------|-------------------------------------|-------|-------|
| | | | | | 増 | 減 |
| 鉄 道 事 業 営 業 収 入 | 旅 客 運 賃 ・ 料 金 | 定 期 | 4 3 9 | 4 4 3 | 3 | 99.1 |
| | | 定 期 外 | 1 0 , 3 4 0 | 1 0 , 2 8 3 | 5 6 | 100.6 |
| | | 計 | 1 0 , 7 8 0 | 1 0 , 7 2 7 | 5 2 | 100.5 |
| | 小 荷 物 運 賃 ・ 料 金 | 1 | 2 | 0 | 86.0 | |
| | 合 計 | 1 0 , 7 8 2 | 1 0 , 7 2 9 | 5 2 | 100.5 | |
| | 鉄 道 線 路 使 用 料 収 入 | 4 0 | 3 5 | 5 | 114.2 | |
| | 運 輸 雑 収 | 5 6 8 | 5 9 8 | 2 9 | 95.0 | |
| 鉄 道 事 業 営 業 収 益 計 | 1 1 , 3 9 1 | 1 1 , 3 6 3 | 2 7 | 100.2 | | |
| 関 連 事 業 営 業 収 益 | 不 動 産 賃 貸 収 入 | 6 1 | 5 6 | 4 | 108.8 | |
| | そ の 他 の 営 業 収 入 | 1 8 | 4 2 | 2 4 | 43.5 | |
| | 関 連 事 業 営 業 収 益 計 | 7 9 | 9 9 | 1 9 | 80.6 | |
| 全 事 業 営 業 収 益 | | | 1 1 , 4 7 1 | 1 1 , 4 6 2 | 8 | 100.1 |

(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しています。

(5) 有価証券の時価等

(単位：百万円)

| 種 類 | 当期末 (平成10年3月31日現在) | | | 前期末 (平成9年3月31日現在) | | |
|---------------|--------------------|--------|---------|-------------------|---------|---------|
| | 貸借対照表計上額 | 時 価 | 評 価 損 益 | 貸借対照表計上額 | 時 価 | 評 価 損 益 |
| (1)流動資産に属するもの | | | | | | |
| 株 式 | - | - | - | 5 | 5 | 0 |
| 債 券 | - | - | - | 6 | 6 | 0 |
| そ の 他 | - | - | - | - | - | - |
| 小 計 | - | - | - | 12 | 12 | 0 |
| (2)固定資産に属するもの | | | | | | |
| 株 式 | 43,299 | 78,193 | 34,893 | 51,583 | 134,245 | 82,662 |
| 債 券 | 16 | 17 | 0 | 17 | 17 | 0 |
| そ の 他 | - | - | - | - | - | - |
| 小 計 | 43,316 | 78,210 | 34,894 | 51,600 | 134,263 | 82,663 |
| 合 計 | 43,316 | 78,210 | 34,894 | 51,612 | 134,276 | 82,663 |

(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 時価の算定方法

- (1) 上場有価証券 ————— 主に東京証券取引所の最終価格
 (2) 気配等を有する有価証券 ——— 日本証券業協会が公表する公社債店頭基準気配等
 (上場、店頭売買有価証券を除く)

3. 開示の対象から除いた有価証券の貸借対照表計上額

| | (当 期 末) | (前 期 末) |
|---------------------|---------------|---------------|
| 固定資産に属するもの | | |
| 非上場株式 (店頭売買株式を除く) | 85,676百万円 | 82,280百万円 |
| (うち関係会社株式) | (81,434百万円) | (77,896百万円) |
| 優 先 出 資 証 券 | 499百万円 | - 百万円 |

(6) デリバティブ取引の契約額等

当社は、デリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。

参考

旅客輸送人キロ及び旅客運輸収入の比較

(単位：百万人キロ、億円)

| | | | 平成9年度 | 平成8年度 | 前年度比(%) |
|---------|----------|--------|--------|--------|---------|
| 旅客輸送人キロ | 新幹線 | 定期 | 992 | 973 | 101.9 |
| | | 定期外 | 40,098 | 40,000 | 100.2 |
| | | 合計 | 41,090 | 40,973 | 100.3 |
| | 在来線 | 定期 | 5,093 | 5,218 | 97.6 |
| | | 定期外 | 4,383 | 4,513 | 97.1 |
| | | 合計 | 9,476 | 9,731 | 97.4 |
| | 合計 | 定期 | 6,085 | 6,191 | 98.3 |
| | | 定期外 | 44,481 | 44,514 | 99.9 |
| | | 合計 | 50,565 | 50,705 | 99.7 |
| 旅客運輸収入 | 新幹線 | 定期 | 121 | 117 | 103.7 |
| | | 定期外 | 9,491 | 9,412 | 100.8 |
| | | 計 | 9,613 | 9,529 | 100.9 |
| | 在来線 | 定期 | 318 | 326 | 97.5 |
| | | 定期外 | 848 | 871 | 97.4 |
| | | 計 | 1,166 | 1,197 | 97.4 |
| | 合計 | 定期 | 439 | 443 | 99.1 |
| | | 定期外 | 10,340 | 10,283 | 100.6 |
| | | 計 | 10,780 | 10,727 | 100.5 |
| | 小荷物運賃・料金 | | 1 | 2 | 86.0 |
| 合計 | | 10,782 | 10,729 | 100.5 | |

(注) 1. 輸送人キロ単位未満端数四捨五入

2. 運輸収入単位未満端数切捨

長期債務残高比較

(単位：億円)

| | 9年度 期末残高 | 8年度 期末残高 | 増減 |
|--------|-------------|-------------|-------|
| 長期債務合計 | 50,452 | 51,643 | 1,190 |

(注) 単位未満端数切捨